

# 消防指令センターの共同運用は

## 質問

愛西市民の安全・安心を担ってきた消防指令台の整備

は平成3年と、老朽化しており、海部全域をカバーする高性能消防指令センターの共同運用開始は必要である。



愛西市消防本部

5消防本部の協議

進捗状況と課題、予算総額と内訳、消防指令センターの設置場所、面積と利用料、職員体制は。

## 消防長

消防指令台とデジタル無線の整備費用は、各消防本部が単独で整備した



鷲野 聡明 議員

場合と共同運用を比較すると、現段階の試算では、単独整備が各消防本部合計額27億3千万円に対し、共同運用整備では14億8千万円となり、12億5千万円の経費削減が見込まれる。

台の基本実施設計を実施し、24年度に指令台整備を行うべく、努力している。指令センター共同運用に伴う予算総額は、平成23年度からの指令センター機器整備費用と平成26年度のデジタル無線整備までに総額約16億円と試算している。弥富市十四山支所を指令セ

# 成年後見制度への取り組みは

## 質問

成年後見制度は平成12年、認知症高齢者や知的障害者らの財産保護、福祉サービスの利用支援などを目的に始まった。

申し立て件数は全国的に増加傾向と聞いているが、市の窓口対応、取り組み状況、近年の申し立て件数の推移は。

## 福祉部長

成年後見の支援は、高齢者が地域包括支援センターで行い、知的・精神障害者等は社会福祉課、あるいは社会福祉

ンター候補地とし、借用予定面積は532㎡だが、賃貸料については決定していない。5消防本部で合計46人勤務している。共同運用では22人を見込んでおり、24人の職員が他部署へ再配置することができ、人員の効率化が図れると見込んでいる。

協議会の中にある障害者地域生活支援センターで行っている。相談、申し立て支援件数ともに増加している。親族の中で申し立てをできない場合は、市が行う市長申し立ての件数も増えている。平成22年度には、11月現在で親族申し立て支援件数が3件、市長申し立て件数が8件となっている。

## 福祉部長

これからは成年後見制度のセンター等を立ち上げて、将来的には個人の力で対応できないので、できるだけ早い時期に進むように努力したい。

## 質問

県下の自治体は近年、市民の増大する要望に対応して、後見人を担うシステムを構築

## その他の質問

指定管理増と職員定数計画の修正は。